

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 9 月 1 日現在

機関番号：82702

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K00187

研究課題名(和文)近代日本美術史における大倉孫兵衛の活動に関する総合的調査研究

研究課題名(英文)The Reserch of OKURA Magobei in Modern Japan Art History

研究代表者

角田 拓朗(Tsunoda, Takuro)

神奈川県立歴史博物館・学芸部・主任学芸員

研究者番号：80435825

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：明治前期、錦絵の版元として活動をはじめ、その後、出版業、輸出業、製陶業など幅広い分野で活躍した大倉孫兵衛。その人物の活動を近代日本美術史という枠組のなかで、その総体を具体化し、評価し、位置付けるはじめての研究となり、多くの新知見を得た。基礎研究として彼が制作した錦絵を詳細に論じ、彼が関わった「雑貨」というカテゴリーすなわち輸出美術の全貌を具体的に論じることで、近代日本美術史という枠組の限界を逆照射する機会ともなった。コロナ禍ではあったものの、成果公開として展覧会実施、学会発表、報告書刊行など、多様な発信に努めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果のうち、特筆すべきは輸出錦絵の実態を明らかにした点である。これまでほとんど実物が確認されず、その背景も論じられる機会がなかった明治期の輸出錦絵の実作品を用い、その作風や展開、販売の実態など多角的に論じることができた。さらに、版元大倉孫兵衛がその輸出業の展開を経て、製陶業に移行した過程を明らかにしたことで、明治期の絵画研究と工芸研究の交差を具体化することに成功した。この研究により、従来、距離があると考えられがちだった、「美術」と「産業」の具体的な接点を指摘し、将来的な研究の展望を示唆し得た。

研究成果の概要(英文)：In the early Meiji era, Okura Magobei started a publisher of Nishiki-e, and after that, he was active in a wide range of fields such as publishing, export, and ceramics. We focused on the nishiki-e he produced and gained new insights, especially on export nishiki-e. It was the first research to embody, evaluate, and position the person's activities within the framework of modern Japanese art history, and gained many new findings. And we got the opportunity to backfire the limits of the framework of modern Japanese art history, by concretely discussing the whole category of "miscellaneous goods" that he was involved in, that is, export art. Under the pandemic of covid-19, we made efforts to disseminate various information such as holding exhibitions, presenting at academic conferences, and publishing reports as a result disclosure.

研究分野：近代日本美術史

キーワード：浮世絵史 陶磁史 工芸史 日米美術交流史 ジャポニスム 製陶業 出版業

1. 研究開始当初の背景

本研究は、明治期の起業家兼アートディレクターである大倉孫兵衛が実践した多彩な活動を美術史的見地から総合的に分析することで、その活動の動機や特徴などを明らかにすることを目的としていた。研究開始当初、大倉の名は多分野にわたる企業経営者として経済史に刻まれてはいたが、その原点が幕末から継続した錦絵版元だったことはさほど重視されていなかった。平成30年にその原点を具体化する《大倉孫兵衛錦絵画帖》が発見・初公開され、大倉の原点から晩年期まで - 最初期の浮世絵版元、盛期の出版、晩年期にかけての陶磁器 -、以上を一貫して研究する土壌が形成された。従来、概観にとどまっていた大倉の研究を改めて具体化し、総合的に把握し直すことが初めて可能になったといえる。可能になったとはいえ、近代日本美術史における平面と立体の枠組みの超克、経営者視点からの近代美術史の読み直し、日米美術交流史の具体化など、課題が山積する状況だった。そのなかで、実証的な調査研究の実施が望まれた。

2. 研究の目的

本研究は、明治期の起業家兼アートディレクターである大倉孫兵衛が実践した多彩な活動を美術史的見地から総合的に分析することが、最大の目的だった。そもそも、孫兵衛の存在自体が知られておらず、彼を版元として理解する前提が必要だった。さらにそこから、どのような動機で他の分野に進出していったのかを考える必要があり、そのため各活動の具体化とその連携も具体化が求められた。その先に、上記に記した3つの課題があった。それらを具体的に論じるために、明治期の錦絵のうち版元鍵萬の活動について、輸出陶磁器のうち地域性について、明治期横浜の輸出美術の概要について、以上3項目を実証的に論じることを調査研究の軸に設定した。その上で、近代日本美術史という枠組の中に、大倉孫兵衛の位置づけを模索し、考察することが必要とされた。

3. 研究の方法

本研究は、純粋な美術史研究の方法論に準拠した。すなわち、個人所蔵家、所蔵機関などから作品や資料の情報を得て、実見調査を実施するものであった。そこで得た知見や情報を積み重ね、大倉孫兵衛の実像に迫る試みだった。そのため、具体的には以下を中心に調査研究を展開した。

《大倉孫兵衛旧蔵錦絵画帖》の内容についての調査研究

… 目録を整備し、それぞれの絵師や作品内容について、検討を加えた。その詳細は、2020年の展覧会図録などで報告した。

萬屋及び錦栄堂、大倉書店についての調査研究

… 大倉孫兵衛の絵草紙・版本・錦絵・書籍等の全体像とその連続性などを調べるため、出版物の総合調査を実施した。さらには、孫兵衛が起こした洋紙製造会社である大倉洋紙店についての調査も実施した。

森村組についての調査研究

… 大倉孫兵衛が輸出商として活動した母体である森村組について調査した。現森村商事株式会社が所蔵する資料などの閲覧に辿り着いた。

森村組を中心とした輸出陶磁器についての調査

… 大倉孫兵衛が担った輸出陶磁器の流れを把握するため、明治十年代から大正期にかけて、企業体としては森村組から日本陶器合名会社、そして大倉陶園への連続性と不連続性を実作品から調査した。

明治期輸出美術全体像にかかる調査

… 研究代表者の既存研究である五姓田派を代表する輸出の平面作品、加えて輸出にかかる立体造形全体について、その輸出商の背景について調査した。

以下の研究成果を挙げることができた点を考慮すれば、その方法論の妥当性と、調査研究の実践は達成できたと評価できよう。特に、これまで美術史という学問領域ではさほど注目されてこなかった絵師や版元の作品、あるいは経営資料の活用など、多くの新機軸が提示出来たと考えられる。

4. 研究成果

このたびの調査研究により挙げられた主な新知見は、以下の3点である。新知見とあわせて、今後の展望も付記する。

大倉孫兵衛の活動の基礎となる、錦絵版元としての活動の具体化

…《大倉孫兵衛旧蔵錦絵画帖》の考察を軸としながら、大倉孫兵衛の版行となる錦絵を総覧し、その特色などを明らかとした。孫兵衛版行作品のなかでも輸出錦絵を詳細に論じることができた点は、本調査研究の最大の特徴であり、評価ポイントといえる。さらにここから、現在もまだ評価が低い、明治期の浮世絵・錦絵の再評価、さらには近代版画全体像の見直しなども期待したい。

大倉孫兵衛の諸活動の連動の具体化

…これまで彼の活動は、製陶業にばかり集中して議論されてきた。錦絵について議論されるにせよ、特に製陶業との接点が厳密に論じられたわけでもなかった。本調査研究では輸出錦絵を焦点としてその接点を具体化し、アートディレクターとしての性格を浮き彫りにした。さらにここから、美術と産業のつながりを重視し、その共同と分離の実態を明らかにする研究が期待される。また経済人たちの美術への関与という視点での調査研究も期待される。

大倉孫兵衛を代表とする輸出美術全体像の具体化

…近代日本美術史研究において、美術品の輸出という点では陶磁器ばかりが目立っていた。このたびの研究では、確かに製陶業が抜きん出ているものの、漆工や金工、あるいは絵画といった諸分野の重要性を改めて確認した。さらに、その総体を「雑貨」として捉え直し、いわゆる「美術」成立期における大きな問題点として指摘し、その全体像と個別部分の具体化の探究がさらに期待される。

以上、3点を具体的に明らかにして、大倉孫兵衛は近代日本美術史において希有な存在であると証明し得た。惜しむらくは、当初想定以上の成果を得たものの、さらに多くの機関での調査や在外調査、研究者らとのシンポジウムが、コロナ禍により未達成だったことである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 角田拓朗	4. 巻 1521
2. 論文標題 「大倉孫兵衛旧蔵錦絵画帖」の史的位置	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 國華	6. 最初と最後の頁 19-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 角田拓朗
2. 発表標題 「大倉孫兵衛旧蔵錦絵画帖」の史的位置
3. 学会等名 美術史学会東支部例会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 角田拓朗	4. 発行年 2020年
2. 出版社 神奈川県立歴史博物館、光画コミュニケーション・プロダクツ株式会社	5. 総ページ数 200
3. 書名 「明治錦絵×大正新版画 世界が愛した近代の木版画」展図録	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	赤木 里香子 (Akagi Rikako) (40211693)	岡山大学・教育学研究科・教授 (15301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	山口 健二 (Yamaguchi Kenji) (90273424)	岡山大学・教育学研究科・教授 (15301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関